

令和元年度N I E実践報告（実践校3年目）

出水市立大川内小学校

1 テーマ

少人数・複式学級における確かな学力の定着を図る学習指導の在り方
～ 言語活動の充実を通して ～

2 N I Eの目標

【低学年】

- 新聞の写真や文字に興味を持ち、新聞に親しむことができる。
- 新聞を活用して語彙力向上を図ることができる。

【中学年】

- 新聞に対する興味や関心を高め、新聞に慣れ親しむことができる。
- 新聞記事を読み、自分の考えを持ち、感想を書くことができる。

【高学年】

- 新聞各社の同一記事を比べて読んだり、記事と自分の考えを比べたりして感想を書くことができる。
- 確かな学力の定着を図るために、授業で学んだことを生かして、新聞記事を使ったワークシート（活用力を高める問題）に取り組むことができる。

【職 員】

- 新聞を活用した指導法について研修を深め、各学年の発達段階に応じて実践する。

3 具体的取組

(1) N I E教育に関する職員研修（研究授業含む）

(2) 全学年共通の取組

- ア N I Eタイムの実施（第2土曜日の朝の時間に実施 毎月1回）
- イ 新聞社への投稿
- ウ N I Eコーナーの設置

4 研究の実際

(1) N I E教育に関する職員研修（研究授業含む）

本校は、NIE 実践校3年目である。今年度は、下記のような研究授業及び授業参観を行った。

	時 期	対象者	内 容
授業参観	5 月	5・6 年	国語科「読むこと（説明文）」
研究授業	10 月	5 年	国語科「読むこと（説明文）」
授業参観	10 月	5・6 年	学活「性被害と性被害」

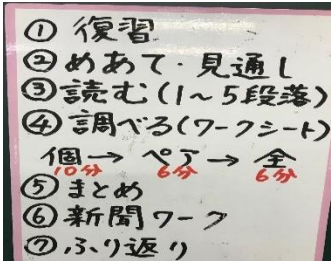
ア 新聞を活用した研究授業の実際 【5年国語科授業（R1. 10月）】

(ア) 本時の実際

単元名： 説明の仕方の工夫を見つけ、話し合おう

教材名： 天気を予想する

目 標： 筆者が、表・写真・図・グラフを用いて説明した意図や、その効果についてまとめることができる。

過程	主な学習活動
導入	【目標の明確化】 1 前時の振り返りをする。 2 本時の課題を確認する。 筆者は、どのような意図で表やグラフ、写真を用いたのだろうか。 3 見通し黒板により本時の学習を確認する。 
展開	【子供が主役となる学び】 4 ①～⑤段落を読む。 5 筆者が、表・グラフを用いて説明している文を探し、その効果について考える。また、どんなものを写真や図で見せているか効果を考える。(個) 6 表・写真・図・グラフを用いて説明している文章や説明することの効果について考えグループ対話をする。 表・グラフ→文章に書かれている物を説明 図・写真→文章に書かれていない物を補う 【一人学び】 一人で考え、ワークシートへ記載 【ペア・グループ学び】 ・お互いの内容を確認 ・友達と内容を比較・確認 【全体学び】 全員で内容を確認   
終末	【ラスト 10 分の充実】 7 本時のまとめをする。 筆者は、表やグラフを用いて説明することで説得力をもって伝えようとしている。 筆者は、読者に分かりやすく伝えるために、様々な論の進め方を工夫していることが分かった。 8 <u>図・表・写真が使われている新聞記事</u>を読み、その資料が用いられた意図や効果について考える。 9 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。 

(イ) 「終末」の工夫（本時の学びと関連した「新聞活用ワーク」）

本時の学びでは、筆者は、図表やグラフ、写真を用いて説明することで、論に説得力をもたせていることを学習した。

そこで、天気に関する内容とグラフが使われている新聞ワークを準備した。本時の学びと関連した問題に取り組ませ、活用力を高められるように工夫した。

(ウ) 「本時の学び」の習得と活用を図るための工夫

【「毎日小学生新聞」記事から】



【「日本経済新聞」記事から】



本時の学びの習得と活用を図るために、家庭学習で図や写真、グラフが載っている新聞を読み、その工夫と効果についてまとめるように指示した。

子供は、自分が気になる新聞記事を選び、説明の仕方の工夫や効果について考えることができた。既習の学びを生かし、創意工夫しながら全員がまとめることができた。

(エ) 設営の工夫

高学年の説明文では、「筆者の考えに対して自分の考えをもとう」という学習活動が多い。そこで、筆者紹介の掲示物を作成し、子供が相手意識を持たせやすいように工夫した。また、筆者の説明の仕方に気付かせるために、文字だけの教材文を準備して本文と比較したり、既習の説明文を掲示し説明の工夫を確認したりした。さらに、台風情報を掲載し、全国紙と地方紙の情報の扱い方の違いについて議論させた。

【「台風情報」地方紙と全国紙の比較】



(2) 全学年共通の取組

ア NIEタイムの実施

本校では、毎月第2土曜日の朝の時間に「NIEタイム」を設け、新聞を使った学習を行っている。興味のある新聞を事前を選び、新聞記事を読んだ自分の感想を書くようにしている。回数を重ねるにつれ、意見文を書くスピードも速くなってきた。また、「新聞」のコラムを使って、文章構成を確認し筆者の考えに線を引かせたり、小見出しを考えさせたりした。

また、説明文学習の活用する段階（終末）で、新聞を使った問題にチャレンジした。説明文で学んだことを生かし、新聞教材で活用したことにより、学力向上にもつながった。

【1年生 4月 新聞について学ぶ】



【新聞を使った問題】



【意見文を書く】



【共通記事の感想を書く】



【複数誌を比較読みする】



イ 新聞社への投稿



南日本新聞ひろば欄の「若い目」や「子どものうた」等への作品投稿を積極的に呼びかけた。子供が作文や詩、俳句の表現を考えるいい機会になった。本年度は、34名中19名の子供の作文や詩が掲載された。掲載された児童には、新聞記事と顔写真をラミネートしてプレゼントしている。

5 成果と課題

【成果】

- 実践研究3年目の実績をふまえ、全職員で共通理解、共通実践しながらNIE教育に取り組むことができた。
- NIEタイムの取組や各学年の作品掲示を通して、子供たちが新聞に興味・関心をもつとともに、文章を読んで自分の考えを書く力が身に付いてきた。
- 新聞を読んで自分の考えを書いたり、友達と議論したりする活動を多く取り入れた。このようなNIE教育を継続して取り組むことで、全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査において全教科で全国平均や県平均を大きく上回った。

令和元年度 全国学力・学習状況調査

教科	国語	算数
全国を100	124	102

令和元年度 鹿児島学習定着度調査

教科	国語	社会	算数	理科
県を100	110	123	117	109

【課題】

- △ 各学年の発達段階に応じた新聞活用について、職員間で更に研修を深め、共通理解を図る必要がある。